St. Luke's International University Repository

さまざまな場所に求められる People-Centered Nursing Care

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-03-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 髙橋, 恵子, 麻原, きよみ, Takahashi, Keiko, Asahara, Kiyomi. メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.34414/00015284

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

【第22回聖路加看護学会学術大会：シンポジウム】

さまざまな場所に求められる People-Centered Nursing Care

座長：髙橋　恵子，麻原　きよみ

本大会は，超少子高齢社会にあるわが国において，持続可能な質の高い看護実践や包括的ケアを目指し，「超高齢社会を支える People-Centered Nursing Care の開発」をメインテーマに行われた．シンポジウムは，本大会の最後のプログラムとして，ケアの提供者とサービス利用者である市民とがパートナーシップをとり，互いの理解・尊敬・信頼の関係基盤と，互いの持ち味を出し合い，互いに役割を担い共に課題を乗り越えるケアのあり方である People-Centered Care（以下，PCC）への理解を参加者とともに深めていく目的で企画された．

今回のシンポジウムでは，さまざまな立場でPCCに取り組む５人のシンポジストから，その取り組みの経緯と現状そして課題と展望についてそれぞれ発表していただき，その後，会場の参加者との質疑応答が行われた．

最初に登壇した天空新聞制作委員会の佐久間保人氏には，市民の立場から，ご自身が取り組んでいる地域コミュニティ紙の活動の経緯，そして自治体やさまざまな人々と連携したシニアの居場所づくりの活動を紹介し，市民がもっているスキルや経験を地域社会に生かしていくことの必要性について発表していただいた．２人目の聖路加国際病院副看護部長である髙井今日子氏からは，臨床実践の立場から，“Patient”ではなく“People”を看護ケアの中心とした，聖路加国際病院における専門的看護実践モデルについて発表していただいた．３人目の新潟大学大学院保健学研究科教授である有森直子氏には，看護教育の視点から，PCC に関する学生への教育の機会の提供とその後について，聖路加看護大学 COE 日本型遺伝看護の創生と普及活動から発表していただいた．４人目の東京医科大学医学部看護学科看護情報学講師である瀬戸山陽子氏には，PCC の実践例について，瀬戸山氏がかかわる2003年に開始した５～６歳児が体を学ぶプロジェクトの変遷（専門職が伝えることから，子どもに身近な人が伝えるための育成プログラムの開発へ）について，発表していただいた．５人目の聖路加国際大学大学院看護学研究科助教である新福洋子氏には，グローバルな視点から，自身が携わるアジア・アフリカ助産研究センターの一環として行われているタンザニアでの Women-Centered Care を促進する教育研究の実際について発表していただいた．

発表後の質疑応答では，会場からPCCの取り組みの成果をどのように示していったらよいのかという質問がされ，５人のシンポジストが，それぞれ現在行っている方法を伝えた．

本シンポジウムでは，さまざまな場で行われているPCCの取り組みを知ることを通して，PCC概念のそれぞれの場でのとらえ方や，場は異なっても共通する認識や姿勢を知ることで，PCC への理解を深めることができた．PCC は共に活動に取り組むパートナーが，互いを理解し，互いの知恵と技を出し合い，共に育ち，共にやりがいをもち楽しむことのできる関係性を示しており，そのよりどころとなる理念を示している．これは特に医療者といった専門家に必要なことなのかもしれない．PCC の取り組みによって，ケアの質を変えることができる可能性を改めて確認することができた．

聖路加国際大学大学院看護学研究科